

INFORMATION

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-10-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/00055884

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



INFORMATION

【期間：2019年】

幹細胞生物学セミナー

日時：2019年6月14日（金）17：30 - 18：30

場所：医学図書館 十全記念スタジオ

演者：小島伸彦 先生（横浜市立大学 理学部 再生生物学研究室 准教授）

演題：微細構造をもつ3次元的な臓器をつくる方法

要旨：我々の臓器は細胞が集まって形成されている。したがって、細胞を一つひとつ組み立てていけば臓器が再構築できるはずである。しかし、細胞の直径は20 μ m程度ととても小さく、指で直接つまむことはできない。細胞は生きているため、細胞周辺の酸素濃度や栄養素などにも気を配る必要がある。さらには、細胞を適当に組み立てるだけでは不十分であり、臓器に備わる微細構造を再現できるかどうか重要である。細胞をマテリアルとして臓器というプロダクトをつくりあげるには、多くの困難を乗り越える必要があり、究極のものづくりの一つであるといえよう。本セミナーでは細胞を使ったものづくりの方法論として、メチルセルロースの膨潤力を活用したユニークな微細構造化3次元スフェロイド作製技術について紹介する。具体的な応用例として (1) AMED「生体模倣システム」事業におけるヒトiPS細胞由来肝臓の高機能化、(2) 1型糖尿病モデル膵島の作製、(3) 精巣様組織の構築とこれを用いた生殖毒性の検証、に関する取り組みの最新データを示しながら、臓器づくりの可能性について語り合いたい。

連絡先：再生分子医学 赤木紀之 <tadayuki@staff.kanazawa-u.ac.jp>

脳神経医学セミナー

演題：iPS細胞を活用した難治性骨系統疾患進行性骨化性線維異形成症の創薬研究

演者：池谷真 先生（京都大学 iPS細胞研究所 臨床応用研究部門）

2007年にヒトiPS細胞が開発されて以来、iPS細胞には細胞移植治療の細胞源としての活用法と、疾患特異的iPS細胞を用いた創薬応用研究への活用法が期待されています。我々は希少難病の1つである進行性骨化性線維異形成症(FOP)に対し、iPS細胞の樹立から疾患モデル化、新規発症メカニズムの解明、そして新規治療候補薬の探索・有効性評価まで一貫して行ってきました。本セミナーではこれらの取り組みについてご紹介させていただきます。

場所：金沢大学医学図書館2階十全記念スタジオ

日時：2019年6月20日 13:00 ~ 14:00

連絡先：金沢大学医薬保健研究域医学系 脳神経医学 河崎洋志

TEL 076-265-2365 E-mail kawasaki-sec@med.kanazawa-u.ac.jp

機能解剖学セミナー

日時：2019年6月25日（火） 17：00 ~ 18：00

場所：金沢大学医学類G棟 第四講義室

演題：「ゼータ型ジアシルグリセロールキナーゼ（DGK ζ ）によるエネルギー・ホメオスタシス調節機構」

後藤薫 先生 山形大学医学部解剖学第二講座教授

連絡先：金沢大学医薬保健研究域医学系機能解剖学 尾崎紀之

TEL：076-265-2156 FAX：076-234-4221

DGキナーゼ（DGK）は、脂質性二次伝達物質ジアシルグリセロール（DG）をリン酸化しフォスファチジン酸（PA）に変換する酵素であり、哺乳類において10種のアイソザイムが知られている。演者らは、DGK ζ が一過性脳虚血ストレスや酸素グルコース欠乏負荷に応答して、海馬ニューロンの核から細胞質に移行し、ユビキチン・プロテアソーム系によって分解される現象を報告している。今回のセミナーでは、このDGK ζ 発現減少が、エネルギーストレス応答メカニズムならびに細胞内エネルギーセンサー系に異常をもたらしている可能性について、最新の知見を紹介いただき、DGK ζ が細胞のエネルギー・ホメオスタシスの調節機構に重要な役割を果たしていることを明らかにされた。

神経分子標的学セミナー

演題：内在性幹細胞による脳梗塞の再生医療

演者：松山知弘 先生（兵庫医科大学先端医学研究所 神経再生研究部門 教授）

日時：令和元年6月26日（水） 18：00 - 19：30

場所：金沢大学医学類 第4講義室

問い合わせ先：金沢大学医薬保健研究域医学系 神経解剖学 堀 修

Tel: 265-2162, mail: osamuh3@staff.kanazawa-u.ac.jp

松山先生は、これまでにマウス脳梗塞後の脳血管ペリサイトがリプログラミングを受けて多能性幹細胞になること、更にそれらが神経細胞、アストロサイト、ミクログリアなど脳内のほとんどの細胞に分化し、脳梗塞後の新たな治療標的になり得ることを報告してこられました。今回のセミナーでは、脳虚血後のペリサイトに関するこれまでの知見を概説していただくとともに、基礎から臨床に及ぶペリサイト研究の最新の成果を発表していただきました。

第13回MRTプログラム・リトリート

MRTプログラムとはMedical Research Trainingの頭文字をとったプログラムのことで、明日の医療を開拓する人材（研究医）を育成することをミッションとしている。このプログラムは、医学類の正式科目と並行して、希望する学生が授業の空き時間や夕方以降、休暇期間を利用して、各研究室で行われている研究・ゼミナール・論文抄読会等に参加するものである。今回は第13回目のリトリートで今年度としては1回目となる。MRTプログラム参加学生・関連学生、教員スタッフ、興味のある方々に広く開放して日頃の成果や今後の抱負を語りあう会となる。

日時：2019年6月28日（金）18時15分開始

場所：金沢大学医学図書館2階 十全記念スタジオ

主催：MRTプログラム実行委員会、MRT担当教員

第13回ALPS研究会

ALPS研究会は、2年に一度開催されるアルカリホスファターゼ（ALP）に関する研究会です。ALPを構成する遺伝子の1つであるALPLの病的変異により発症する低ホスファターゼ症（HPP）は、近年治療として酵素補充療法の選択肢が増え、日本においては指定難病・小児慢性特定疾患の対象になっています。本研究会では「アルカリホスファターゼの最近の進歩と課題－診断・病態から治療・follow upに向けて」をテーマに、まだ日本では多くの未診断と想定される成人HPPの情報を海外から策定されたガイドライン、日本で導入される血清ALPの新しい基準値（IFCC法）について教育講演をお願いしました。また、HPPの酵素補充療法にも用いられている酸性ペプチドが骨指向性を持つ発見への経緯を「特別講演～北陸からの発信」としてお願いしました。ぜひ、この機会をとおり、ALP、HPPを知り、皆様の交流が深まり、これからの研究、医療の発展に繋がればと期待いたします。

開催日：2019年7月6日（土） 10：00～15：40

開催場所：石川県政記念 しいのき迎賓館 2階ガーデンルーム（金沢市広坂2丁目1番1号）

連絡先：金沢大学附属病院 遺伝診療部 TEL：076-265-2861 E-mail：aw3703@staff.kanazawa-u.ac.jp

第35回 Neuroscience Seminar 「新規創薬標的としての細胞内主要ATPase, VDP」

京都大学大学院 生命科学研究所・高次生体統御学分野 教授／金沢大学 客員教授

垣塚 彰 先生

開催日時：2019年7月11日（木）18：30～19：30

開催場所：金沢大学医学類B棟小会議室（B棟1階）

このたび、京都大学大学院生命科学研究所・高次生体統御学分野 教授／金沢大学 客員教授の垣塚 彰先生をお招きしてセミナーを開催致します。垣塚先生は、神経科学の分野では遺伝性脊髄小脳変性症の原因遺伝子を発見され、ポリグルタミン病の概念を提唱された方としてご高名ですが、最近抗肥満・抗糖尿病作用をもつERRL1遺伝子の同定など、多方面で業績をあげられています。今回、学類生の特別講義のために金沢にお越しいただく機会に御講演をお願いいたしました。大変興味深いお話を拝聴できるものと思います。どうぞお気軽に御参加ください。

連絡先：脳老化・神経病態学（脳神経内科学） TEL：076-265-2293 E-mail：neurojim@med.kanazawa-u.ac.jp

神経分子標的学セミナー

演題：ユビキチンリガーゼ ZNRF1 が制御する 神経分化と変性のメカニズム

演者：荒木 敏之 先生（国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 神経研究所 疾病研究第五部 部長）

日時：令和元年 8 月 23 日（金） 18：00 - 19：30

場所：金沢大学医学類 第2講義室

問い合わせ先：金沢大学医薬保健研究域医学系 神経解剖学 堀 修

Tel: 265-2162, mail: osamuh3@staff.kanazawa-u.ac.jp

荒木先生は、これまでユビキチンリガーゼ ZNRF1 が細胞骨格を構成する微小管の安定性を介して軸索変性をコントロールしていることを報告されました。さらに最近、ZNRF1 による神経突起構造の制御系が、神経発達過程における神経細胞の形態分化をも制御していることを明らかにされました。本セミナーでは、ZNRF1 によるこれらの制御メカニズムと神経突起構造の安定性制御の意義について概説いただきました。

第1回 北陸免疫研究会

日時：2019年9月13日（金）15：00 - 18：35 場所：医学部記念館2階 プレゼンテーションルーム

演者1：安本和生先生（金沢医科大学大学院医学系研究科 腫瘍内科学 特任教授）

タイトル：「難治性スキルス胃癌に対する革新的新規標的治療法の開発」

演者2：馬場智久先生（金沢大学がん進展制御研究所 分子生体応答研究分野 准教授）

タイトル：「白血球細胞と正常造血細胞の間でのクロストーク」

演者3：樗木俊聡先生（東京医科歯科大学難治疾患研究所 生体防御学分野 教授）

タイトル：「単球・マクロファージの分化経路と疾患標的としての可能性」

演者4：松島綱治先生（東京理科大学生命医学研究所 炎症・免疫難病制御部門 教授、東京大学名誉教授）

タイトル：「新規がん複合免疫療法を目指した私達の取り組み」

連絡先：金沢大学医薬保健研究域医学系 分子遺伝学 倉知 慎（Tel:076-265-2176,E-mail:kurachi@med.kanazawa-u.ac.jp）

第26回 日本時間生物学会 学術大会

日時：2019年10月12日（土）9：00～19：00 / 2019年10月13日（日）8：30～18：00

場所：金沢市文化ホール 会議棟

テーマ：時間生物学の新潮流 Neo-chronobiology

開催概要：特別講演 ・服部正平（早稲田大学）

・Erik Herzog（Washington University in St. Luis）

シンポジウム・生物時計の発振と同調機構にみられる共通性と多様性

・細胞・組織・個体に表出されるリズムの自律性と非自律性の分界

・体内時計研究の産業応用や社会実装

・体内時計・睡眠とメンタルヘルス

・時間医学 from bench to population

・生物の多様な集団発振現象

ポスター発表データブリッツ、ポスター発表（～120演題）、奨励賞授賞式・受賞講演

大会HP：<http://neurophysiol.w3.kanazawa-u.ac.jp/26jsc>

連絡先：金沢大学・医学系・統合神経生理学（第26回日本時間生物学会学術大会 運営事務局）

TEL：076-265-2173, E-mail：26jsc@med.kanazawa-u.ac.jp

第49回日本消化器がん検診学会東海北陸地方会

開催日：2019年11月30日（土）

開催場所：石川県文教会館（石川県金沢市尾山町10-5）

一般社団法人日本消化器がん検診学会は、本邦の消化器がん健診に関する学術、研究の推進と、効果的な検診の実践、普及をはかり、ひいては国民の健康増進を通じて社会に貢献することを目指しています。その一環として、第49回日本消化器がん検診学会東海北陸地方会を開催します。今回の地方会では「消化器がんの科学と実践」を主題にかかげ、関連企画講演、シンポジウム、一般演題発表と共催セミナーを通じて、本会の主旨に資する発表や討論がなされるよう願っています。本地方会には、東海北陸地区から医師、診療放射線技師、臨床検査技師、保健師、看護師、行政職など消化器がん検診関係者およそ300名余の参加が見込まれることから、実り多い学術集会になるよう準備を進めています。

連絡先：金沢大学がん進展制御研究所 腫瘍制御 源 利成 TEL 076-265-2798 E-mail minamoto@staff.kanazawa-u.ac.jp

CONTENTS

Atsushi Mizokami : An autobiography ~ Leave myself to the flow of time ~ 25

[Reviews]

- Kouichi Misaki :** Fundamentals and clinical application of computational fluid dynamics to cerebral aneurysm 26
- Kyosuke Kagami :** Tissue clearing technology: three-dimensional visualization of transparent pregnant uterus and ovary 31
- Akira Kakizuka :** Halfway of a dream : Aiming to treat intractable diseases 36
- Yusuke Nakade :** Gut microbiota-derived D-serine protects against acute kidney injury 38
- Yasuyuki Shinozaki :** Impairment of the carnitine/organic cation transporter 1-ergothioneine axis is mediated by intestinal transporter dysfunction in chronic kidney disease 42
- Yuki Saito :** Monoamines Inhibit GABAergic Neurons in Ventrolateral Preoptic Area That Make Direct Synaptic Connections to Hypothalamic Arousal Neurons 45
- Kengo Saito :** Investigation of fiber layers in the developing cerebral cortex using ferrets 48
- Toshiaki Tokumaru, Tadashi Toyama, Takashi Wada :** Association between late dinner habit and proteinuria onset in people with abdominal obesity 50
- Hiroshi Ichimura :** A report of the Global Seminar in Kanazawa 52
- Makoto Kurachi :** Academic Networking Meeting 53

複写をご希望の方へ
金沢大学十全医学会は、本誌掲載著作物の複写に関する権利を一般社団法人学術著作権協会に委託しております。

本誌に掲載された著作物の複写をご希望の方は、(社)学術著作権協会より許諾を受けて下さい。但し、企業等法人による社内利用目的の複写については、当該企業等法人が社団法人日本複写センター((社)学術著作権協会が社内利用目的の複写に関する権利を再委託している団体)と包括複写許諾契約を締結している場合にあつては、その必要はございません(社外頒布目的の複写については、許諾が必要です)。

権利委託先 一般社団法人学術著作権協会
〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル3F
FAX : 03-3475-5619 E-mail : info@jaacc.jp

複写以外の許諾(著作権の引用、転載、翻訳等)に関しては、(社)学術著作権協会に委託致しておりません。

直接、金沢大学十全医学会へお問い合わせ下さい。

問い合わせ先 金沢大学十全医学会
TEL : 076-265-2131 FAX : 076-234-4208
E-mail : kenkyu@adm.kanazawa-u.ac.jp

金沢大学十全医学会編集委員

杉山和久(委員長), 赤木紀之, 市村宏, 絹谷清剛,
高橋智聡, 中田光俊, 吉村健一

令和1年7月発行
(日本出版協会会員番号 B111010)

編集者・発行者 杉山和久
発行所 金沢大学十全医学会
〒920-8640
石川県金沢市宝町13-1
TEL:(076)265-2131 FAX:(076)234-4208